

● 日本の主な火山活動

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続している。新岳では、6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は観測されていないが、火山性地震が時々多く発生した。火山性微動は観測されていない。火山ガスはやや少ない状態で経過している。今後も、5月29日と同程度の噴火が発生する可能性がある。大きな噴石の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

桜島では、15日07時頃から南岳直下付近を震源とする火山性地震が多発し、また、桜島島内に設置している傾斜計及び伸縮計では山体膨張を示す急激な地殻変動が観測された。このことから、桜島では、規模の大きな噴火が発生する可能性が非常に高くなっていると判断し、同日10時15分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から4（避難準備）に引き上げた。昭和火口および南岳山頂火口から3km以内の有村町および古里町では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石や火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）が必要である。

箱根山では噴火は観測されていないが、火山活動は引き続き活発な状態で経過している。火山性地震は7月以降減少しており、やや少ない状態で経過しているが、地殻変動観測では引き続き山体の膨張を示す変動がみられ、大涌谷周辺では引き続き噴煙や噴気が勢いよく噴出している。今後も小規模な噴火が発生する可能性があるため、大涌谷周辺の概ね1kmの範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

西之島では、海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石や、水面を高速で広がるベースサージ等の影響が概ね2kmの範囲に及ぶおそれがあるので、西之島の中心から概ね4km以内では噴火に警戒が必要である。

雌阿寒岳では、ポンマチネシリ火口付近の浅いところを震源とする火山性地震はやや多い状態で推移している。25日に国土交通省北海道開発局の協力により実施した上空からの観測では、ポンマチネシリ火口付近の地熱域は拡大が認められた7月27日及び8月5日の観測時と同程度の広がりであったことを確認した。全磁力連続観測ではポンマチネシリ96-1火口近傍の地下における熱活動の活発化の可能性を示す全磁力の変化が継続している。ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、ごく小さな噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

吾妻山では、大穴火口からの噴気活動はやや活発な状態が続いている。大穴火口付近では小規模な噴火が発生する可能性があるため、大穴火口周辺（火口から概ね500mの範囲）では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられている。湯釜火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

浅間山では、6月19日の噴火以降、噴火は観測されていない。山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震は多い状態が続いている。また、二酸化硫黄の放出量も多い状態で経過しており、引き続き火山活動はやや高まった状態で経過している。今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね2kmの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

御嶽山では、火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014年）10月以降噴火が発生していないことから、昨年9月27日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年9月27日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山の中岳第一火口では、8日12時14分にごく小規模な噴火が発生した。火山性微動の振幅は概ね小さな状態であったが、26日に一時的に大きくなった。孤立型微動は概ね多い状態で経過した。火山性地震は時々発生した。中岳第一火口では、活発な火山活動が続いていることから、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）では、火口直下を震源とする火山性地震が時々発生した。GNSS連続観測によると、新燃岳周辺の一部の基線で、2015年5月頃からわずかに伸びの傾向が認められる。また、北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられていたが、2015年1月頃から停滞している。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島の御岳火口では、小規模な噴火が時々発生した。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるため、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

**表 1 8 月 31 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況
（※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中）**

特別警報・警報・予報	噴火警戒レベル及びキーワード	該当火山
噴火警報	レベル 5（避難）	口永良部島※
火口周辺警報	レベル 4（避難準備）	桜島
	レベル 3（入山規制）	箱根山
	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	雌阿寒岳、吾妻山、草津白根山、浅間山、御嶽山、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
噴火警報（周辺海域）	火口周辺危険 周辺海域警戒	硫黄島※ 福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、新潟焼山、焼岳、富士山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

*噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図 1 8 月 31 日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山